

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	46
都道府県名	鹿児島県

【 】
*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	喜入町立喜入小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	21
児童数	58	59	48	50	65	39	3	322	

研究の概要

(1) 研究主題

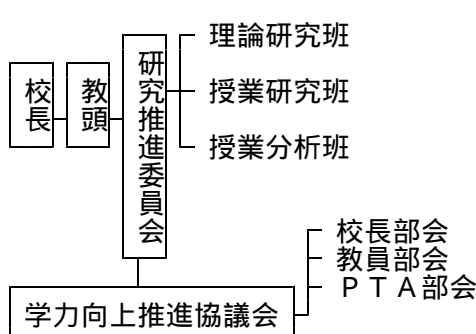
基礎学力の定着を図り、自ら学び、自ら考える子どもの育成
～ 国語科・算数科における学習指導の充実を目指して～

(2) 研究主題設定の趣旨

2年間の研究を基盤にしながら、個に応じた指導の充実のために、指導形態や指導法の改善・充実・開発を図る研究を進展させていく必要がある。国語科・算数科の本質に迫るような研究を行っていく必要がある。指導に生かせる評価の研究を進めていく必要がある。

研究の概要(選択した観点を中心に記述すること)

(1) 研究推進体制の工夫



【改善点】
昨年度は、研究教科が、国語と算数ということで、国語主任・算数主任を中心に全体を国語部・算数部に分けたが、理論研究が思ったように進まなかったので初年度と同じ研究体制を進めることとした。また、今年度は、客観的なデータを収集し、学力向上のための具体的対策につなげるために、アンケート項目やアンケートの実施・集計・分析など資料分析中心に進めてもらうことにした。

(2) 研究の実際

2年算数科授業実践例 題材名「長さ」 H15.6.30実施

(児童数 い組1学級(男子17名 女子13名 計30名)
(児童数 る組1学級(男子17名 女子13名 計30名)

個に応じた指導の工夫について

ア 学習形態・指導形態の工夫

1・2年生の算数科は、すべての時間TT指導を行っている。T1は子どもの実態をよく知っている担任が行い、T2は加配教員が行うことが多い。教材教具の準備は主に加配教員が行っている。

少人数指導を行うということも考えられるが、教室や備品準備の関係からも難しいと考えられる。また学習態度や学習習慣が十分に身につけていない低学年の段階の児童に対しては、習熟度を考慮した少人数よりも、2人の教員が個々の児童のつぶやきや素朴な疑問などに、きめ細かに対応できるTT指導のほうが効果的であると考え、通常はTT形式での指導を行っている。

今回の研究授業では他校との共同研究ということで、兼務発令により、い組は2コースに分けて他校の教諭3人と本校教諭1人が少人数・TT指導を行っている、る組は本校教諭がTT指導を行った。

イ 教材・教具の開発

研究授業での教具は、「ものさし」の導入であるので、異なる目盛りをもつ2種類のものさしを準備した。この2種類のものさしを使わせ、比較させることにより、「数学的な考え方」を引き出すことができると考えた。問題解決のための自分に必要なアイテムを手に入れることにより、ものさしの必要性に迫らせようとするものである。

実際において(本時)

TT指導のみ

過程	主な学習活動	教師の発問と児童の反応	対応時間
つかむ	1 前時の活動を振り返る。	(魚の大きさを鉛筆で測った後) T1「きちんと測るためにはどうすれば良かったのかな。」 C「測るものの長さを同じにします。」 C「同じものではなかったらいいと思います。」	
	2 学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">いろいろなものの長さを正しくはやくはかるくふうを考えましょう。</div>	T1「何で測ればいいかな。」 C「ブロックです。」 C「定規です。」 C「ますを使いました。」	
見通す	3 掛け図の大きなますを使って、魚の長さを考える。	C(動かす魚を食い入るように見ている) C「魚をますの線に合わさないといけないな。」 T1(ワークシートの魚)「こんな小さな魚はどうやって測ったらいいかな。」	
	4 数字の書いていない工作用紙の棒を使って、いろいろな魚の長さを測る。 ・棒を自由に使って測る。 ・測りやすくするためにはどうすればいいか工夫して測る。	T1「どんなふうに使ってもいいのでやってみましょう。」 C(ワークシートの魚を測る) ~長さ発表終了後~	T2 15" T1T2 1'56"
調べ	5 測った魚の長さを発表する。 ・もとにするものが同じ長さのますの棒を持っているのに、どうして違う答えが出てくるのか考える。	T1「みんなの中に工夫して測っている人がいました。」 C「ますの中に数字を書きました。」 T1「どうして数字を書いたの。」 C「数えている途中で忘れるからです。」 ~便利な方はどちらか、比較させる。~	T1T2 2'20"
	6 2種類の工作用紙のうち、測るのに使いたい方を選び、魚を測る。	(2種類のものさしで測る) ~しばらくした後~ T1「ますの棒と比べてどちらの方が測りやすいかな。」 C「中馬先生の方です。」(全員)	T2 25" T2 45"
	7 測った魚の長さを発表し、どちらの棒が便利で、正しく長さを表すことができるのか考える。		
深める	8 目盛りのついた工作用紙を使って、残りの魚や身近にあるものを測る。	T1「ワークシートの残りの魚を測って答え合わせをしましょう。」 T2「すんだら、ふでばこや身の回りのものを測ってみましょう。」 C(工作用紙のものさしを使って測る)	T1T2 2'43"
まとめる	9 本時の学習をまとめ、ポストテストで自己評価をする。 10 次時の学習内容を知る。	T1「ポストテストをしましょう。」 C(ポストテストに取り組み、終わった子どもは、自己評価を行う) T1T2(丸をして、個別指導を行った)	

(3) 研究の成果と課題

ア 成果

(TTによる指導について)

教師2人が役割演技を行うことにより、子どもたちに揺さぶりをかけ、考えようという意欲を引き出すことができた。不合理さを感じ取らせることは「数学的な考え」を引き出すことにつながる。

低学年は丸をしてもらうことが大好きなので、教師2人で早く丸を与え認め

てあげることは「算数が好き」につながっていった。また、T2が理解に時間のかかる子どもに個別指導をすることができた。
 (少人数指導について)
 人数が少ないので、一人一人に目が届き、個に応じた指導ができる。
 子どもたちは集中するようになり、積極的な授業態度になる。
 (単元の評価規準の結果より)

P:ポストテスト, N:ノートまたはワークシート, C:支援を要する子, I:発表, K:観察

小単元	評価規準	評価	子どもへの対応
くらべかた	ある長さをもとにすると長さを数で表すことができることを理解できる。 (考)(K・I・N)	Cが0人	
	長さを測るには、同じ長さのもの(工作用紙のますを利用)に目盛りをつけて使うと便利で、正しく測りやすくなることに気づくことができる。 【本時】 (考)(N・K)	Cが0人	
長さのわしやかた	正確にcmが書ける。 (表)(N・P)	Cが0人	大きすぎたり離れたりしている子がいたので、宿題に出して定着を図った。
	身の回りのものの長さを考えて、測ろうとする。 (関)(K・I)	Cが0人	0を合わせていない子への指導を行った。
	cmの単位では正確に測れない、端下の長さの表し方について考えることができる。 (考)(K・I・P)	Cが0人	宿題に出して定着を図った。
	単位の仕組みをもとにして、単位の換算の仕方が分かる。 (知)(N・P)	Cが4人	宿題プリントで定着を図った。やり方を忘れていた子どもには放課後の個別指導を行った。
	以下省略		

イ 課題

単元の内容による、指導形態の工夫の在り方
 低学年における少人数指導の在り方

(4) 研究成果の普及の方策

- ア 兼務発令により、町内における他校との共同研究で成果の普及を図る。
- イ 研究授業や研修の内容を情報として提供し、普及を図る。

(5) その他

学習指導カウンセラー派遣事業で、学習指導カウンセラーに指導・助言をいただきながら、理論と実践の融合を図っている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

喜入小学校は、鹿児島大学助教授の指導を受けながら、兼務発令により、他校での授業や他校の教師の授業を行うなど、授業を通じた実践的研究に取り組んでいる。

また、自校の評価規準を授業に生かすという観点から研究に取り組んでおり、単に指導過程や指導形態を工夫するのではなく、内容や教材教具及び評価の生かし方等との関連を重視しながら、授業改善に取り組んでいるところが参考になると考える。